

平成 29 年 2 月 8 日

平成 28 年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

1. プロジェクト名 東アジア美術データベースの構築と活用

2. 申請研究者

板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所・情報学環）

共同研究者

呉孟晋（京都国立博物館学芸員）

植松瑞希（東京国立博物館学芸員）

西谷功（泉涌寺宝物館学芸員）

高橋真作（鎌倉市 歴史まちづくり推進担当）

3. 研究期間 平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日（3 年間）

4. プロジェクトの趣旨、全体計画（400 字程度）

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト、および小川裕充名誉教授が進めてきた資料整理プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。

『中国絵画総目録』3 篇の刊行開始は日本のみならず中国・韓国美術史学会では世界的に注目されているが、3 か年で残る第 4～6 巻を完結させる。同時に「中国絵画所在情報データベース」「東アジア絵画史研究文献目録」「幕末期中国絵画所在情報データベース」の画像も充実させる。

また、これらのデータベースを活用して、比較美術史的な手法を意識しつつ、様々な切り口で研究会を開催、新たな視点からの東アジア美術史を提示するように試みる。

5. 今年度の研究実施状況（400 字程度）

既に出版を開始した『中国絵画総合図録』3 編の資料整理を引き続き行い、本年 12 月には東アジア・オセアニア編である第 4 巻を出版し、引き続き、日本編である第 5 巻の出版の準備を進めている。日本所在の個人コレクションの収蔵品については、現在海外流出の量は想像を超えており、来年度まで出来得る限りの補訂を行うことを決定、第 5 巻に加えるためのデジタル写真撮影・資料整理を行った。

又、2016 年 5 月にはセンターセミナー「十九、二十世紀之交英文著作中の東亞畫史建構：

以對宋與室町人物畫評價為例」を開催、欧米における東アジア美術史学の成立過程の検討を行い、6月には同「從佛教版畫談宋、西夏、元的文化傳承與流變」を開催、仏教美術における東アジアの交流の諸相を検討、7月には同「韓国美術文化特講－高麗・朝鮮王朝の美術への誘い」を開催、韓国美術の展開についての学界の知識を共有、9月には同「雪舟入明再考」を行い、**15世紀東アジアにおける絵画交流**について意見交換を行った。

#### 6. 今年度の研究成果の概要（400字程度）

『中国絵画総合図録』3編第4巻ではアジア・オセアニア地域を対象としているが、これまで未紹介であったオセアニア地域に収蔵される中国絵画が含まれており、華僑を中心としたアジア系移民が増加する当該地域の状況が反映されているなど、複数の研究者から感想が寄せられた。

センターセミナー「十九、二十世紀之交英文著作中的東亞畫史建構：以對宋與室町人物畫評價為例」には学内外の研究者25名、「從佛教版畫談宋、西夏、元的文化傳承與流變」には30名、「韓国美術文化特講－高麗・朝鮮王朝の美術への誘い」には100名、「雪舟入明再考」には50名が集い、新出作品を含めて活発な議論が行われた。